

気象観測衛星NOAA（ノア）による水温情報の提供

気象観測衛星 NOAA

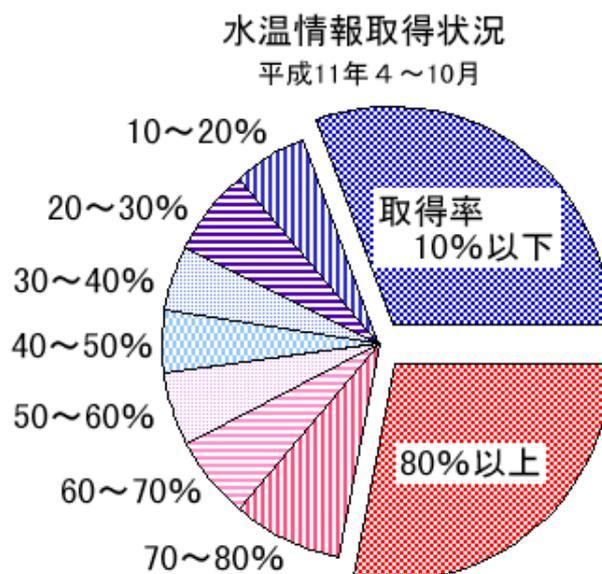
NOAA(アメリカ大気海洋庁：National Oceanic and Atmospheric Administration)が運用している衛星で、地上分解能 1.1km で地球を 1日 2 回周回しています。常時 2 つ以上の衛星が運用されているため、1日に 4 回以上日本近海の水温情報を取得しています。

しかし、雲や霧が海域を覆うと衛星から水温を推定することができません。

水温情報の取得状況

平成 11 年 4～10 月の毎日、西部瀬戸内海における水温情報の取得状況を整理してみた結果、海域全体で良好(情報取得率 80%以上)な情報が得られる確率は約 30%、雲等によって水温が推定できない(情報取得率 10%以下)確率が約 30%でした。残りの約 40%が情報取得率 10～80%の範囲に一樣に分類されました。すなわちひと月(30日)のうち9日は広い範囲で情報が得られ、9日は情報が得られなかったこととなります。取得状況を灘ごとに整理してみましたが灘間に大きな違いはありませんでした。これは雲や霧の発生が広範囲であるためかと考えられます。今回整理した期間は、霧の多い初春から梅雨期であったことから 11 月以降において、取得率は高くなるものと考えられます。

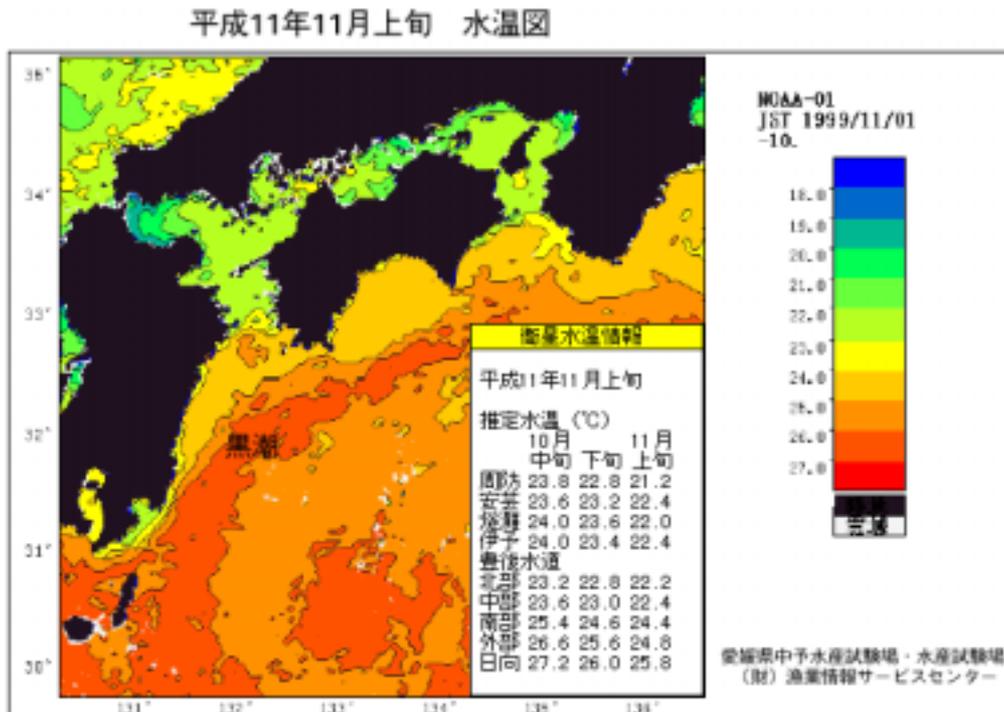
注：情報取得率 = 雲や霧が海域を覆っておらず水温が推定できる面積割合。



水温情報

水温情報は東京で受信したものを（財）漁業情報サ - ビスセンタ - を介して入手しています。入手した時点で、1日の情報が合成されたものに加工されています。水産試験場ではこの情報に雲域の補間処理と等水温線を加え、なお見やすい画像を作成しています。

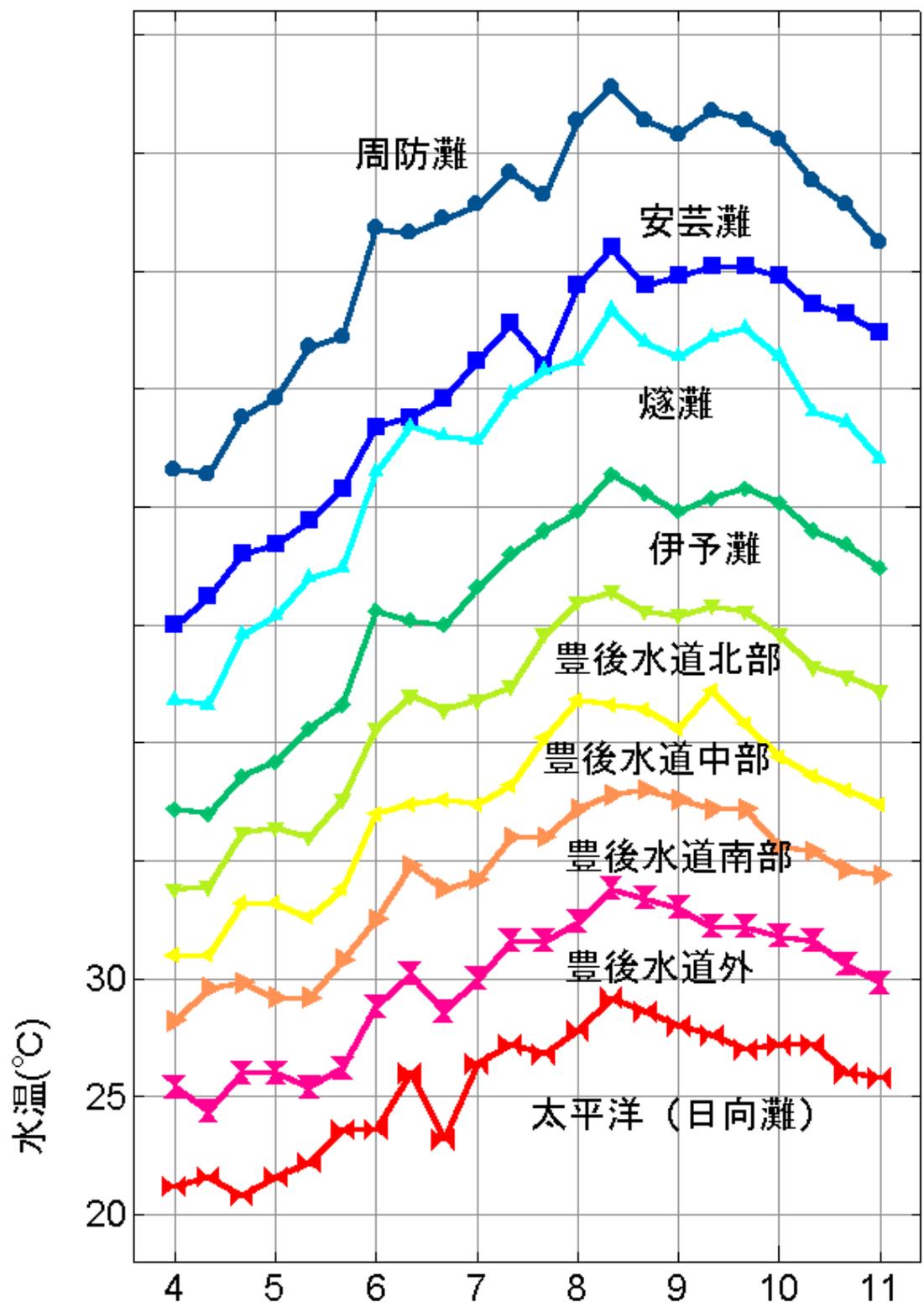
また雲等での取得状況の変化に対応するため、週もしくは旬(7日もしくは10日)毎に合成するとともに、参考として衛星によって推定される灘別の水温を表示しています。



今後

衛星によって推定される水温は海表面での推定値であるため、実際の海域での水温より高めに推定されます。この差を小さくすることに努めていきます。

また同時に漁業関係者に迅速に有効な情報を提供できるよう検討していくことにしています。気象観測衛星NOAA(ノア)による水温情報に関する要望等につきましては、水産試験場までお知らせください。



平成11年 (月)
 気象衛星NOAAによる灘別・旬別水温